


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	職員の入れ替わりもあり、過去から現在にわたる流れや、状況を伝達することを、念頭においていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域の方との交流をはかれるように、食事会や、茶話会などを開催し、接点を増やす。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域の方との交流をはかれるように、地域の活動・たとえば祭りに出店したりするなどの取り組みが提案されている。検討してみる。

グループホームぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に開放したり、地域の暮らしに役立つことなどの取り組みは、老人保健施設が担っているが、ホーム独自のありようについて、考えていく必要があると思う。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	小さなことからでも、改善できるようにという、意識は高いと思います。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のことや、ホームでの困り事も含めて、報告しており、アドバイスやお手伝いとかかってでももらったりしている。	○	今年度から、単発的な行事のボランティアだけでなく、食事会や、茶話会などを開催したり、小さなことからではあるが、なじみの人が少しでも増えるようにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とかかわる機会はほとんどないのが、現状である。	○	ホームの取り組み・困難なことについてもより一層知っていただくことが、サービス向上につながると思うので、話す機会を増やしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前は、成年後見人制度を利用している人が多くいた。必要なケースがある場合は、アドバイスしたいと考えます。	○	学ぶ機会をとおして、職員が理解できるように、研修に参加してもらおう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの一つ、一つに対しても、お互いに指摘しあえる関係作りをめざしています。	○	研修に参加できていない職員が多いが、虐待が見過ごされるような関係ではない。研修に参加できるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケース毎に、異なる事情を抱えており、十分でないと感じる場合もあるが、できうる限りの対応をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に至らない、小さな疑問や、不満をできるだけ、利用者から感じ取ることが大切であり、運営にも生かすように取り組んでいる。	○	できるだけ、地域のボランティアにホームに訪問してもらおう。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお知らせを送付すると共に、個別の様子を知らせている。職員の異動は、家族交流会時に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などを利用し、ご家族にご意見を報告したりしているが、より一層の取り組みが望まれる。	○	家族交流会にもボランティアにも参加してもらおう。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の介護部門の拠点である、老人保健施設施設長、事務長が職員会議にも出席して、ホームの細かな問題点や、悩みを理解してくれる。また、提案や助言をしてくれる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	老人保健施設からのバックアップが得られるが、柔軟とはいえない。また、管理者が、可能な限り調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は定期的に行われていない。離職に伴う採用でも、ダメージが最小限になるように配慮している。経験者や、引継ぎの期間を長く持つなどである。		

グループホームぬくもりの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の方針としては、新人・現任・中堅教育を徹底して行っているが、ホームはそのカテゴリに当てはめるには困難な面もあるために、独自で、ホームにあった形で、必要な研修に、いけるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と交流する機会を持っていない。</p>	<p>○ 協議会への参加が、できるようにしたい。特に、今年度よりブロックごとに、勉強会を持つことになっており、職員が一回でも多く参加できるように配慮する。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>老人保健施設の施設長・事務長が、職員会議に出席すると共に、主治医が、ケース会議に参加することで、現状を把握することに努めている。</p>	<p>○ 個々の職員の意見を個別にヒヤリングしてほしいという要望がある。検討している。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修に参加するために、体制に不備が出るときは、バックアップすることを約束してくれている。個々の努力の評価については、定期的なヒヤリングの機会がほしいという希望がある。</p>	<p>○ 個々の職員の意見を個別にヒヤリングしてほしいという要望がある。検討している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>問題を整理し、ケアマネとも連携して、取り組んでいる。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>求めていることは、聞き出しにくい点でもあるが、気持ちを聞くことで、問題や、希望を整理して、取り組んでいけることをまず、提示する。</p>	

グループホームぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即対応すべき事案もよくあり、ホームがすぐ対応できるサービスでないということもあり、他施設などの選択も勧めることが多い。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なじめるように努力している。利用に関しては、一度来所してもらい、場の雰囲気を知ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の年齢もバラエティにとんでおり、介護する、されるという関係ではなく、お互いそっと寄り添うことが大切であることを介護の基本においている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族も含めて、介護することを念頭に、それぞれの家族に応じた対応をすると共に、できるだけ、細かなことや、出来事エピソードに至ることも、共有できるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ゆっくり、また新たな関係づくりができるようにと考えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力していただかないと実現は難しいが、時にケアマネとも連携している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が暮らしていく中で、仲間としてなじみとなっていくが、その過程で、橋渡しや、調整役としてかかわり、レクリエーションなどにも取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な場合は、病院などにも訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や、表情に目をむけ、できるだけ自然な形で希望を聞くことが大切である。また、そのことを、日々のケアに生かせるように、打ち合わせや、会議をとおして、全体で共有できるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過は把握が困難な場合もあるが、できるだけ情報を収集するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝の打ち合わせをとおして、今日、今の利用者に状況に応じた対応ができるようにしている。スタッフの日々の引継ぎも大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が会議に参加していないのが、現状であるが、利用者も含めて会議をすすめていき、意見を聞く機会を設けている。言えない利用者は、総合的に判断している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月に一回のケース会議を通して、見直しをすると共に、必要な場合は、短期間での見直しも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が記録のみになっている場合が多く、現状の記録では論点が絞りにくいのが改善点として挙げられる。	○	工夫が見える記録になるように、改善していきたい考える。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独の事業所であるために、多機能性を生かすことが困難であるが、医療法人の特性をいかし、医療のバックアップ、介護施設の利用などが可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力体制はできている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望があれば、対応をする。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとも連携をする体制はできている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医にかかる場合は、ご家族に受診等について協力してもらうことにしている。その際、情報提供をすると共に、場合によっては、同行することも念頭にしているが、事業所の職員体制もあり、必ずしもうまく機能するか、過去のケースでは疑問が残ることもあった。医療体制は万全を期して対応している。		

グループホームぬくもりの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>終末期については、ホームではできないが、重度については、介護の限界もあるが、かなり実績を積んできている。ケースにより、異なる結論が出ると考えられるため、家族も含めて話し合いを持っていく必要がある。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	楽しく、穏やかに暮らすことが大切であり、そのことは、全職員が実践できている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の気持ちが表現できるような場面を、事あるごとに設けて、支援に努める。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになりがちであることを、スタッフ会議や、ケース会議をとおして、職員一人一人が、気づき、利用者のペースに合わせるように配慮していくケアを実践できるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望むお店に行くのは、家族に依頼している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いたり、観察を通して、反映させている。また、共に作業をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	禁煙にさせてもらっているので、喫煙者は、外泊や外出時に喫煙してる。そのほかは、必要に応じて準備させてもらっている。	

グループホームぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全介助の利用者も、排泄(排便目的)で一日一回は、日中にトイレに座ることにするなど、必要に応じたケアを実践している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介護浴のため、日中に行っているが、本人が、曜日を指定している場合や、時間指定がある場合があるので、可能な限り実現している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	パターンを把握するようにつとめて、時に促し、疲れが出ないように配慮する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別の取り組みをとおして自信や楽しみが見出せるように取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金もつことの大切さは理解しているが、利用者は、ほとんどお金の持つことも困難な状況である。また、所持をしているが、買い物に使ったりしていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ、希望に沿った形で、散歩に出かけるなどを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ケースにより、以前は希望のデパートにいたり、娘さんの琴の発表会に出かけたり、支援してきたが、家族の協力も不可欠であり、実現は難しいこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛けるられる。そのために支援する。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に面会ができるように対応をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するケアについては、会議等を通じてお互いに指摘しあえる雰囲気をもって、介護にあたっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室については、居室の入り口に鍵はかからない。外への吐き出しの窓は、無断外出の恐れもあり、時間ごとの開放にしている。玄関は鍵を掛けていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人、一人に合わせた、安全面からのマニュアルを作成し、安全に配慮している。定期的に水分補給をすることで、状態把握をする。また、夜間は、定期的な巡視はもとより、個々にあわせて様子観察するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事故防止マニュアルにそのことも盛りこんでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに盛り込むと共に、見直しも定期的に行ってる。		

グループホームぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全員が訓練を終えていない。また、定期的な訓練も出来ない。	○	研修に参加してもらうべきであるが、法人の研修では、時間の設定上、限られた人間しか参加が出来ないので、外部の研修も利用集める必要があると考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を行うと共に、地域の人にも参加してもらったりする。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、普段の暮らしの様子を伝えながら、変化を共有し、その時々リスクを知ってもらい、ホームでできること、出来ないことも含めて、話すようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特記事項にあげると共に、ホワイトボードの活用もしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の理解はある程度、説明が出来ているが、臨時の薬や、そのほかについても不十分な点があるとの意見が出ている。	○	7月の職員会議で、再度定期処方薬の確認と、その注意点を勉強する。定期的な見直しは、変更の度に行う。また、主治医と連携して、把握に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食材の利用なども取り入れている。また、体操も個別に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介護の基本に口腔ケアを位置づけており、歯科医・衛生士とも連携している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉類・魚類・大豆製品など、一日の中に必ずバランスよく配分したメニューを作成するようにし、食事の量については、観察しながら支援している。水分補給は、時間を決めて摂取してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルもある。また、該当者が出た場合は、直ちに主治医の指示の元、対応することになっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルの作成と共に、会議などを通じ啓蒙活動をしながらか、食材については信頼できる業者と常に担当者が意見交換している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口に車椅子が置かれているなど、出入りしやすい環境でないが、スペースの関係上いたしかたない。	○	花を植えるなど、入りやすい雰囲気に対応できるようにすることは、最低限出来るのではないかとと思うので。取り組む予定にしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭気には、定期的な空気の入替え、消臭剤の利用などを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと称し、居室前にテーブルと、椅子が用意されている。		

グループホームぬくもりの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	措置からのホームであり、ホームに備えた家具が多くあるが、入居の際、出来るだけご自分の物を持参くださいと説明している。	○	使い慣れたものを持参されることが少ないのも現状ではある。また、備え付けのもので済ますケースがほとんどである。入居の際の説明や、相談時により一層の工夫が求められる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	マニュアルがあり、それに沿って対応している。こまめに対応するように把握に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋であり、段差の少ない状態にしている。利用者にあわせて、レイアウトを変えたり工夫している。また、テーブルに位置などにも配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱が生じないように一人一人に対応する方法なども、ケース会議や、朝の打ちあわせを通じて話し合っている。	○	記録に詳しく記載すると共に、介護のヒントになるように、より一層の対応が統一できるようにする。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の構造上、ベランダを設けるのは困難であったため、活動は工夫しようがない。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームぬくもりの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は、他の事業所も含めると、介護経験が豊富で、認知症介護にも高い関心を持って取り組んでいる。認知症ケアに強い関心を持って働いている。また、利用者の一人一人に対しての個別のアプローチに対しても、積極的に取り組もうとしている。食事面では、出来るだけ嗜好を大切にしながら、偏食になりがちな利用者も多く、バランスよく摂取していただくように工夫を重ねている。健康で楽しく穏やかに、ながく暮らしていけるように、身体機能の維持にもつとめており、個々に応じた体操や、訓練を日常生活の中に取り入れている。